



NO. 939

2013. 10. 6

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四四三、四四五八
F 四三、四四五七



平成24年度決算に反対!

10月1日の本会議で、決算審査特別委員会委員長から委員会報告がありました。

日本共産党議員団は、平成24年度一般会計決算について、単年度黒字が続いているが、人口も減少していることなど、市民一人当たりの借金も変わらぬ。苦しい中でも単年度黒字や不用額などのやり繰りで、乳幼児医療費無料化や就学援助の拡大などは可能だ。また、第3次行革による人員削減や給与・退職金の削減は職員のモチベーションを低下させると指摘し、総合的には暮らし・

福祉・教育を中心とした市民密着型の決算とはいえないと反対しました。

特別会計は、市有財産、国保、網走港、能取漁港、流水館、後期高齢者医療の6特別会計に、それぞれ理由を述べて反対しました。採決の結果、日本共産党以外の賛成多数で認定されました。



いいだ議員の一般質問

1項目、網走厚生病院の人工透析医師の不在解消について

昨年未より担当医が不在で診療体制は出張医に頼っている。現在の診療体制ではシャント処理などリスクが大きいく、不便が生じている。常駐医確保に向け他の自治体と連携し強力な働きかけを求めました。

2項目、大曲パークゴルフ場の芝維持対策について

高齢者の健康増進に貢献している大曲パークゴルフ場の芝生が干ばつにより枯れており、降雨があった後も回復していない。現状をしっかりと把握し、枯れない対策を求めました。

3項目、干ばつ対策における畑そう事業の効果について

7月の降雨不足で農作物への影響は多大だった。しかし、卯原内ダムや緑ダムを水源とする畑総事業で完成した水利施設をこのような時に本格的に活用すべきと求めました。

4項目、消防広域化の延長への対応について

広域化は、目標の期日を過ぎても進展なく、事実上破綻していると言わざるを得ないことへの認識と、広いオホーツク地域に北見市に消防本部をおく広域化はなじまない。消防管理者である市長は、現行の消防体制を守るべきと対応を求めました。

松浦奮戦も

大阪の堺市の市長選挙が9月29日に行われ、現職の竹山氏が圧勝しました。最大の争点は「都構想」

で、「維新の会」が強引に推し進める「大阪都」構想で堺市をつぶすのか、それとも堺市を守って暮らした福祉を前に進めるのか。「堺はひとつ」「堺を守れ」の一点で政党や団体、個人の垣根を越えた市民共同が大きく広がりました。

日本共産党は「維新の会」の「堺つぶし」「堺のつとり」を許さない立場から、自主的に竹山氏を支援し、勝利に向け幅広い市民と力をあわせて奮闘しました。大阪は維新の会の本拠地なので、選挙結果が、とても心配でしたが堺市民の「堺はひとつ」の思いが結集した力が、約6万票近い大差で圧勝しました。

この結果、維新の会の橋下氏の「大阪都構想」に、大きな打撃になり破綻したことを示すものであり、戦いに勝利したことに安堵しました。

いいだ東奔西走

一般質問で取り上げた厚生病院の人工透析担当の常駐医不在は、患者さんにとって大変なリスクを背負うことになります。

毎週、3回の透析は欠かせませんし、不具合が起きると医師の指示なしに看護師さんは治療出来ません。週1回の出張医だと他の2回のとときに担当医はいなく、循環器科の医師が代行し指示します。主な不具合はシャント処理といて血液透析する動脈と静脈の合流地点のところできらるのが大部分です。事が起きるとシャント造影を行いさまざまな対応を行うが、治療が必要な場合は北見市にいて専門医院での治療が必要となります。

市長は、「厚生病院は人工透析専門医の募集をはじめ医師確保について全力を注いでいると認識している。しかし、常勤医がいらない診療体制は、地域の救急体制の危惧もあり深く受け止めている。地域医療存続のため周辺自治体とどの様な働きかけがいいのか、医療機関などと協議を重ねたい」と答弁した。人工透析の患者さんの苦悩はまだまだ続きます。

氷流

「木を見て森を見ない」という言葉がある。JR北海道の連発する事故の報道がまさにその通りである▼国鉄が分割民営化された時、北海道の国鉄は赤字だった。「広い」「過疎」「冬」「多いローカル線」：悪条件が重なっていたため、国鉄全体は首都圏などの収益で、それをカバーしていた。JR北海道はスタート時点で赤字になることは分かっていたことなのである▼民営化されたら「もうける」ことが第一となる。そこでJRがやったこと。「人員整理」「新規採用ゼロ」「徹底した合理化」「副業に手を出し、拡大」…。直接利益をうまない「保険」などが軽視されたのはいわば必然だった▼事故が続

き始めると新聞、テレビで評論家は安全軽視だ、職員の気概が足りないなど、まるで「心構え」の問題であるかのよう報じた。まさしく「木」しか見ない報道である▼分割・民営化の問題からときおこし、課題を明確にして解決すべき方向を示した「森を見る」報道もあった。それが全体の論調に変化をもたらしている。「赤旗」である。▼今、「赤旗」の価値が見直されている。一般紙が報じてない「真実」がタブーを恐れず報道されている。外国の特派員が「赤旗」を見ないと日本の政治がわからないと言わらしい。赤旗は日本の明かりです。(〇)